

改題 土楽たより

どうらく

Kogure 農場 3月号 (NO71)

2016年3月10日(木) 発行(毎月10日)

【農暦】、ぼかし堆肥つくりで発酵成功!

○今日8日快晴で何となく空気が変わったように感じる。何となく外に出たくなるような陽気である。外出のついでに手賀沼のウォーキングのコースを歩いた。コンビニで買った“肉マン”に“むすび”にコーヒーの昼食が素晴らしく美味であった。景色と空気が美味の後押しをしているのは間違いない。昨日の雨も冬のものとは違うものであった。5日は啓蟄(けいちつ)であったと後で知った。土の中の虫が陽気に誘われ動き出すころのことを云う24節気の一つで、独特な文字と意味で、よく覚えている。この陽気はまだ本物ではないようだ。寒気が来ているという。三寒四温とはよく言ったものである。暖かさはまだまだである。予報では10度も気温が下がるという。這い出した虫も戸惑うと思うが、身体の順応が出来ない。暖気を受けた身体には厳しく感じる。春の陽気はもう少し先である。虫も草もだが活動を始める前に、やり残しの畑や家の周りの片付けをしてしまおうと、少しずつ進めてきたのだが、まだ多くを残している。春近しである。急がねばと思う。

○片付けや畑の整備はやっている割には進んでいない。少しやると筋肉痛、寒さもあり、気力も上がらない。片付けや整備はやり始めるとやらなくてはならないことが見えてくる。クリーン作戦でゴミ拾いをする時と同じである。普段余り気にならないゴミが気になる。何よりも綺麗なところにはゴミは捨てずらい。畑や周辺の片付けの作業は、この心理効果に近いものがある。

○私のだらしない畑を見て農仲間が作業を手伝ってくれた。葛や篠竹などで荒れたハウスや周辺エリアの片付けを一緒にやってくれた。遅れている片付けに加速がついている。片付けされ整理されたエリアが荒れた畑の悪さを際立たせる。今度は、ピッコロファームの仲間から畑の整備の援農の提案を受けた。非常に嬉しい。だが、頑張っていない自分に少しだけ寂しい気分になっている。最近では、言い訳が多い、反省ばかりである。

○ぼかし堆肥つくりの講習会に参加した。前からやりたいと思っていたことでもあったので、この機会にと、講習会に参加した人と一緒にやることにした。荒れたハウスを片付けて、この中でぼかしの堆肥つくりをした。うまく行くか心配であったが、仕込み後3日目



＜オイヌノフグリの群生＞手賀沼のジョギングコースにブルーの可憐な花。
春は直ぐそこに。8日撮影

には 60 度位に発熱していた。発酵は成功である。高温になり過ぎないように、何度か切り返しをしている。出来るだけ継続して作りたい。畑作に弾みが付きそうである。もうすぐお彼岸である。無理のない作付け計画にして農作業を楽しみたいと思う。

【楽農】片付け&ぼかし堆肥づくり！

<畑 A> ; 片付け、剪定、草払機で除草など

<ハウス> ; 草払機で除草、片付け、ごみ処理。

ぼかし堆肥づくり。

春播きのソラマメのポット播き。

<畑 B> ; 放置のままの。

*大根、白菜、ネギの食材に。周辺の片付けと除草などの作業を継続。



<枠の中に堆肥>ぼかし堆肥づくりの講習会で。25日撮影

【楽市】イベント交流・直売など

○その他 ; レイクエコー (13日) リボン館バス見学会 (16日) 魅力発信隊連絡会 (18日) ぼかし堆肥づくり講習会 (25日) 共生の会 (3日) に参加など。

【つぶやき=Tweet】2度目の「富岡製糸場」！

○「先日のラジオ番組に八代亜紀さんが出ていて” お酒はぬるめの爛がいい” のぬるめとはと聞かれ、あれは” 女性の谷間の温度” と答えていましたよ。」と、先号の八代亜紀の舟唄の記述に元会社の友人からメールを頂いた。こんなことを聞くと、あぶったイカで、ぬるめの爛でお酒を飲みたくなる。演歌の世界もなかなか良いものがある。日本人の心情に合うものがあるだろうと思う。カラオケが流行っているようだ。痛風や糖尿には悪いと云われるが日本酒が飲みたくなる。

○ネパールの恵まれない女性の教育の支援カンパ活動している人達がネパールを訪問して来た。その報告の集いに参加させて頂いた。ネパールの人と非常にいい関係であることが報告の

映像に表れていた。かつて、カンボジアに学校を贈る会の活動やパキスタンの貧しい人へ支援・フェアトレード、内蒙古の沙漠緑化(植林)など個人や民間団体レベルの活動はいろいろ行われている。今でも継続して活動をしているかわからないが、私が知っているだけでも、これだけのものがあるのである。個人や民間レベルで良い活動をしている日本人は意外と多いと想像される。キナ臭いことやナショナリズム的な世論が目立つ今の状況



<大きな蒟蒻玉>こんにやくパークの入口にあった。上端に見える足先と比べて下さい。16日撮影

にあつて、些細な事でも大きな抑止力に繋がるのかも知れない。ネパールの人達との交流の映像を見ながら思った次第である。

○世界遺産「富岡製糸場」へは偶然にも2度目のバス見学会になった。世界遺産を金儲け、街づくりに活用しようとの想いを強く感じ、客の呼び込みなどは少し気障りなものも感じた。そして、公的な大遺産がこんな形でしか担えないのかと思った。ネパールの世界遺産も簡易な支持棒で倒壊防止しているなど惨めな状況に置かれていると、上述の報告会の映像で見せられ聞かされると、こんな形でしか維持できないのだと、変だと思うが首肯するしかない。世界遺産の登録の意味が気になる。軍艦島のこともある。難しいことが多い。

○「富岡製糸場」の案内人の説明の中で、この当時の人の“世のため人のため”の志の高さ、それに控え、今の人とは？で止め、解雇（^{かいこ}蚕）されるので言えないが、の話が、印象に残った。確かに、今は、ろくに働きもせず利権・厚遇まみれであると思う。弱者はマスマス救われない。発展途上の国ではとかく利権や賄賂まみれと謂われるが、明治政府の要人は高潔で賄賂はなかったと聞く。急速かつ豊かに発展した。軍国主義に絡め取られてからの日本は悲惨なものになってしまったのだが、大正ロマンと云う言葉が残されている程に、文化的にも経済的にも急成長したのである。西郷隆盛の偶感、亡友月照、の詩文を詩吟で習ったが、志や信義の高さがうかがえる。利にまみれ過ぎた世情に在って、先人の志や信義は学ばねばならないが、利権・厚遇まみれの世情を克服するには、ひょっとしたら善意の活動が近道なのかも知れない。

○「富岡製糸場」の見学の後に「こんにやくパーク」に寄った。無料で食べ放題を頂いた。多彩な料理でコンニャク好きにはたまらない。経済効果、街づくりに、どれだけ寄与しているかは判らないが、私の目には地域おこし、農業振興の好例のように見えた。今回のバス見学会は「環境」関連であったが「環境」切り口のテーマはなかった。これでよかったと思っている。全く違った切り口から良いものが出てくると思うからである。街づくりでもやることは“金太郎飴”状態でどこでも同じようなことをやる。うんざりもするしうまくいくはずもない。違った切り口からいいものが生まれるように思う。また、つぶやきばかりである。つぶやきの効能を信じているので、付き合っていると嬉しい。

【後記】ブルーの可憐な花のオイヌノフグリが群生し咲き始めた。笠間に、kogure農場にお越し下さい。HPに転載します。

【特に編集せずランダムな構成にします】



**<くららん藤岡・農産物直売所>
売れ行き良さを、棚の構造、農家毎の棚スペースに工夫が。16日撮影**

発行者；Kogure農場・小暮虎雄

住所；笠間市本戸4201-10

携帯電話；090-9333-4135

メール；torao-k@nifty.com

HP；<http://homepage3.nifty.com/toragigi/>